



目どるの近所付き合いが身を守る!! 育てよう地域の力「自主防災組織」

防災・防犯は、まず子どもたちのことを考える！
平山区 自主防災組織

平山区の自主防災組織は、7月と12月に行う地域内の見回りと、9月に西入間広域消防組合の協力で行う防災訓練を主な活動としている。平山区の特徴の一つに、子ども会と自主防災組織の連携がしっかりしていることがあげられる。自主防災組織で7月に行う見回りは、安全に安心して夏休みに入れるようにと、子どもたちのことを思っ

て、地区内を見回るのだという。また平山地区には自主防災組織とは別に、泉野小学校と連携して子どもたちを見守る「学校応援団」が組織されている。登下校の時間に8〜9人で通学路に立ち、子どもたちを見守っている。

「この地区でも同様だと思いますが、自主防災組織や地区の役員などは、限られた人で行わなければならないことが多くあります。ただ平山地区は、幸いにも若い人が多く、皆さんが

協力的なので、こういった若い力を育てていくことが、重要だと考えます」と答えてくれたのは、平山区自主防災組織の小久保会長である。

今年の町主催の防災訓練や、自主防災組織で行った防災訓練にも、多くの若い世代が参加したそう。これからの自治会は、昔から住む経験豊富な世代と、新しいことに挑戦ができる若い世代が手を取り合っていかなければなりません。行政とも更に協力を深めて、地区の活性化を図っていききたいと考えています。」と小久保会長は話してくれた。



本年9月に行われた防災訓練の様子

先人の歴史を 第246回 先人が残した博物誌 ～山根村の『郷土誌』～

昭和14年（1939）に毛呂村と合併した山根村には、現在の老人福祉センター山根荘の場所に、山根尋常小学校がありました。その山根尋常小学校が、大正6年（1918）に作成した資料に『郷土誌』があります。

『郷土誌』は、「乾」、「坤」の2冊からなり、山根村の歴史や自然、郷土の偉人、産業、交通、古くから伝わる習俗、村人の暮らしの様子、村の条例などが詳しくかつ丁寧に記録されています。

『郷土誌』には、山根村の山野に生息する獣類としてカワウソ（獺）の名が見られます。ニホンカワウソは、かつては日本全国で見ることができましたが、平成24年に絶滅して

しまいました。また、ヤマイヌニホンオオカミが時折姿を現していたことも記されています。

果実類では、山根村の「産物ノ重ナルモノ」、「産物ノ最モ大切ナルモノ」としてそれぞれ枇杷、蜜柑が紹介されています。現在、毛呂山町の特産品として知られる柚子については「盛ニ産出シ東京ニ出ス」とあり、大量に出荷されていたようですが、大々に栽培が行われるようになるのは『郷土誌』作成後の昭和になつてからのことでした。

人びとの暮らしでは、夜間の照明は洋燈ランプが最も多く、旧来の行燈は絶え、ろうそくを使う燭台や携帯用の提灯もわずかに使用されていたほか、着火は火打石からマッチが一般的になつたと記されています。

『郷土誌』は、100年ほど前の大変興味深い内容が豊富に記された博物誌です。



山根村『郷土誌』